

地域防災力の中核

私たちの地域には、普段は本業の仕事に従事し、災害時には現場に駆け付けて災害活動に力を尽くす、二つの顔を持つ人たちがいます。一般市民や学生で構成される消防団です。消防士と連携して災害現場を支えたり、地域の防災活動を進めたりするなど、地域の防災に不可欠で重要な役割を果たしています。

消防総務課 ☎44-0985

消防団



左から、三留綱太さん(漁師 団員1年)、安齊さん、内田泰司さん(団員20年)



岩沢 友香さん (31歳 鎌倉市
消防団本部付 団員1年)

こんにちは。私は今年の4月に消防団に入りました。一緒に、鎌倉の消防団の活動を見ていきましょう。

私が入団したのは、3.11の後、被災地の石巻でボランティアをしながら災害が人ごとと思えなくなり、日中地元で動ける人として、女性ならではの力を発揮したいと思ったからです。



安齊 正好さん (58歳)

【災害発生時の顔】(団員32年)

消防署の要請を受けると、昼夜を問わず坂ノ下の分団小屋に駆け付け、消防車出動に必要な3人以上の団員を揃えて出動する。現場(火災・浸水など)では、消防士から要請された支援を行う。「雪が降ればタイヤにチェーンを付け、雪かきもして、出動に備えます」。

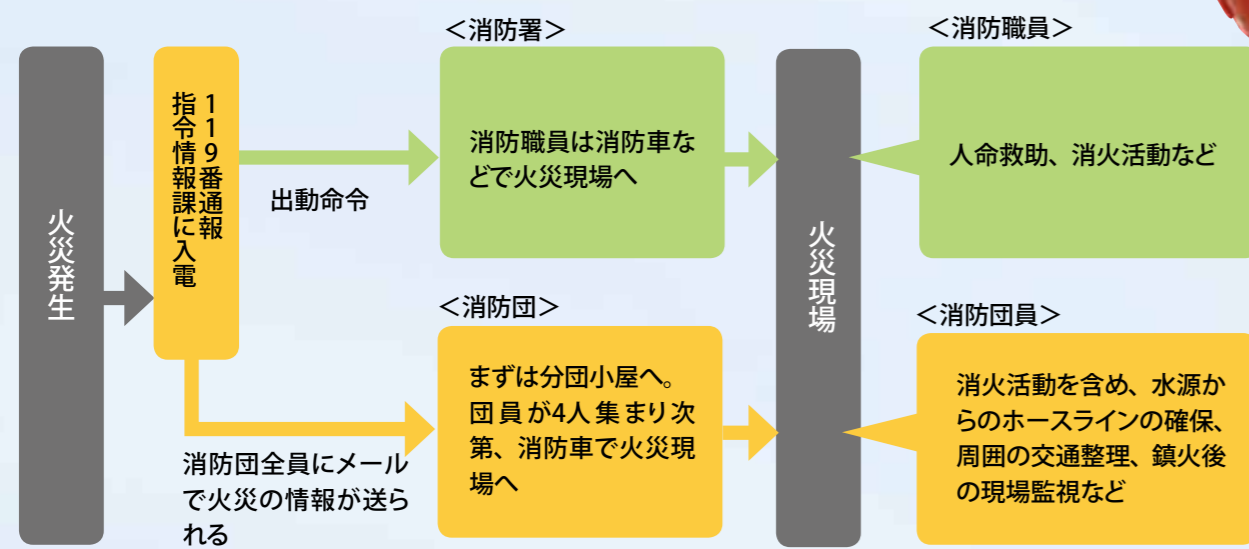
【平常時の顔】

元禄年間(1700年頃)から続く老舗和菓子店店主。伝統の甘味を守り、名物のあんころもち「力餅」を日々提供している。



火災が起きると

市内で火災が起きると、消防署から消防団にメールで連絡が来ます。該当地域の消防団は、態勢が整い次第、現場に向かいます。



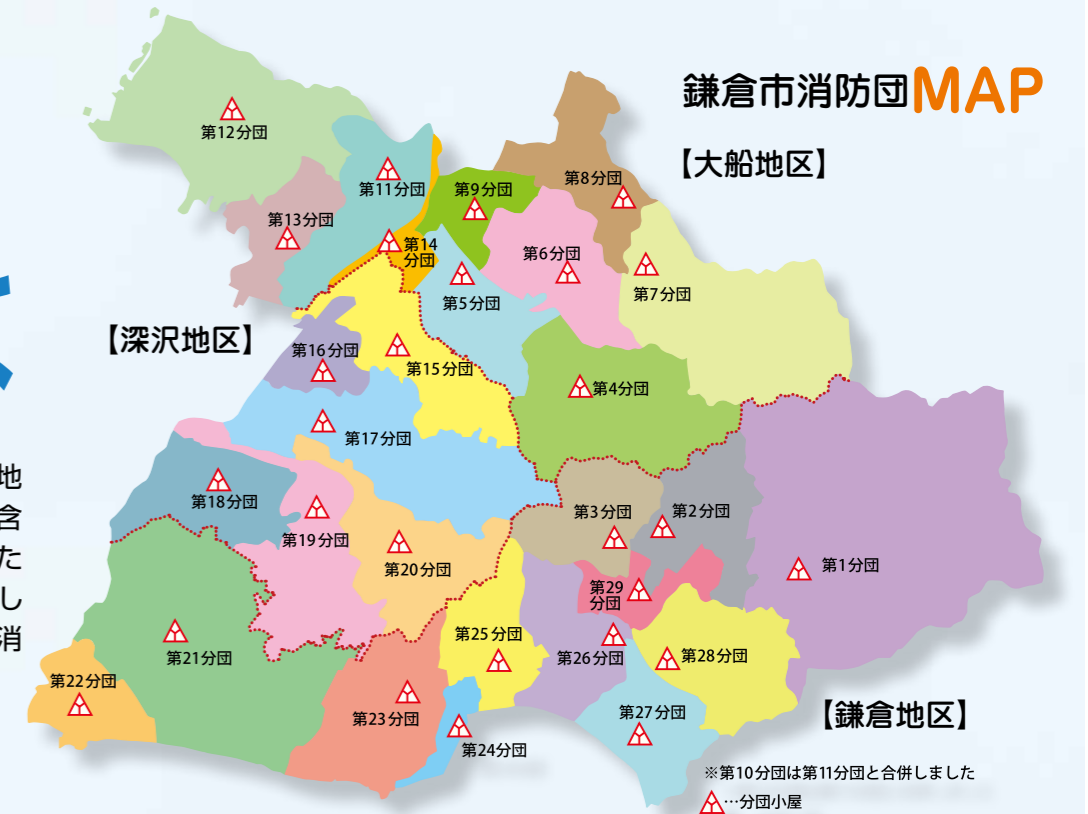
中嶋 健史
大船消防署副署長

「消防団の皆さんは、火災現場などで連携して活動するとともに、さまざまな場面で後方支援もしてくださっています。例えば、火災が鎮火した後、再燃がないように見回りをすることや、台風などで風水害があった場合、その地域の人が孤立しないよう夜間の警備をすることなどは、決して目立つことはありませんが、重要な任務です。消防団の皆さんがこのような役を引き受けてくださるから、私たちはいつ起こるか分からない別の災害に対し備えることができるのです。大変助かっています」



消防団とは

「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神の下、全国各地域ごとに設置されています。本市では市民433人(女性2人を含む)で28分団(右図)を構成しており、皆平常時は本業の仕事(または学業)に就き、災害時に消防の要請を受けて消防団として活動しています。この消防団のサポートがあるからこそ、約230人の消防職員の防災力は、より効果的に発揮されるのです。



こんな活動をしています

<p>消火活動</p> <p>消火環境の確保</p> <p>隣家に延焼しないよう放水したり、消防士が消火活動を円滑に行えるよう、現場近辺の交通整理や、水源から現場までのホースラインの確保などを行います。</p>	<p>現場の警戒監視</p> <p>再燃防止や現場保存のため、鎮火後の現場を見張ります。この監視役がいるため、消防士は消防署に帰り、他の災害に対応できるのです。夜間の火災では朝まで監視を続けます。</p>	<p>資材点検・出動訓練</p> <p>週末などを利用して、基地(分団小屋)の消防車・ホースの点検や出動訓練を行い、常に緊急時の要請に応えられるよう整えています。</p>	<p>市内の広報活動</p> <p>予防運動期間や年末年始などには、市内の地域を巡回して防火を呼び掛けます。</p>	<p>応急手当の勉強</p> <p>応急手当が必要な局面に対応できるよう、救急救命講習などで勉強しています。</p>
--	---	--	---	---

操法大会などへの参加

操法とは、消防訓練における基本的な操作手順のことです。ポンプ・ホースなどの操作を速く正確・きれいに行う競技大会へ参加し、操作のレベルアップに努めています。7月28日の神奈川県消防操法大会では、全国初の女性団員による災害時緊急対応合同訓練展示も行われ、県内11市町から21団66人の女性団員が参加しました。

訓練展示の災害設定：神奈川県に震度6の地震が発生。平日昼間のため多くの男性団員が不在の中、女性団員が救出や誘導・消火活動を行う必要がある。津波は相模湾一帯に発生。

私は、他の自治体の女性団員と組んで津波避難誘導をしました(写真右)。同じ消防団の制服を着て練習を重ねるうち、初対面にもかかわらず仲間意識が生まれて協力の雰囲気が強まります。実際の災害時でも冷静に活動できるよう、常に練習しておきたいです。



津波避難のための誘導(訓練)



7月28日神奈川県消防操法大会

消防団の仲間たち



中川勇希さん (第19分団 団員3年 26歳 営業職)

僕が入団したのは、地元が好きだからです。父が団員で、仕事をしながら地域貢献する姿をカッコいいと思っていました。7月28日に行われた操法大会に向けた練習では、20代～40代の団員が一致団結して、細かいことまで指摘し合って頑張りました。会社の営業の仕事とはまた違う、貴重な経験です。



中川春菜さん (鎌倉市消防団本部付 団員1年 29歳)

父や弟の活動を見ていて興味があったので入団しました。川の氾濫などの連絡がきて出掛けていく様子から使命感がひしひし伝わっていましたから、私も手伝いたかったのです。

操法大会の訓練披露で私は津波避難の誘導役でしたが、実際にやってみると活動服や救命胴衣が暑いし、走り回するには靴も重いですね！事前練習では、他の分団の先輩方と一緒に、初めは出なかった声も、やっているうちに出てきて実感が湧きました。先輩方のはきはきした、しっかりした姿に女性のパワーを感じました。

田二見健さん (第21分団副分団長 団員27年)

地域への恩返しのつもりで、入団しました。第21分団は七里ガ浜、西鎌倉、南鎌倉山など、活動エリアが鎌倉で一番広い分団で、団員は22人います。私は団員のコミュニケーションに気をつけて、毎月の器具点検では話しやすい雰囲気づくりを心掛けています。また体調管理も大切です。いつ出動要請が掛かるかわかりませんから。



宗田和弘さん (鎌倉市消防団副団長〈大船地区担当〉 団員31年)

大船地区では水害があります。柏尾川の氾濫やフラワーセンター前の浸水です。大きな災害では、状況を見て周囲の分団に加勢を頼みます。昼間の火災で各分団に5人ぐらいずつしかいない時、5分団が出動して2時間交代で朝まで見回したことがあります。皆、仕事を放り出してでも現場に行こうとしますが、無理に仕事を休まないように、と言っています。私の本業は植木職人ですが、消防団も責任感からだんだん好きになってしまい、今は好きだからやっています。



中川利男さん (第19分団分団長 団員19年 51歳)

車両もポンプも機械も、何かあった時に対応できる状態であることが必要で、月に2回点検しています。そのほか年2回の大きな訓練や消防職員と一緒に自主訓練も行います。分団員はみんな地域を思う気持ちが強いですね。3.11の時、停電で連絡が取れず召集はかかっていないのに、分団員が自然に小屋(分団基地)に集まっていたことを思い出します。大型台風が来て小屋での待機が長かったときも、皆ずっと残ってくれていました。私はサイレンが鳴るとすぐ目が覚めて準備を考えてしまいます(笑)。

中川家のお母さん：

分団員の皆さんもけがや事故のないように、とそれだけを思っています。息子は地域貢献をしながら成長させてもらっています。娘から入団したいと聞いた時は戸惑いましたが、春菜らしいと思いますので見守っていきます。

団員のご家族は、どのように見ていらっしゃるのでしょうか。



平井保男さん (鎌倉市消防団団長 団員36年 57歳)

消防団は災害現場に駆け付けるだけでなく、日々訓練や警戒警備、広報活動なども行っています。団員は皆、仕事をしながら消防団の活動を行っているため、出動要請があった場合に、その地域の消防団だけでは人数が揃わない場合があります。その時は隣の分団と連携を取りながら、対応しています。消防団が火災や災害の現場に行くことで、消防職員が次の現場に出られるよう、これからもサポートしていきます。



入団には

市内の受け持ち区域に住む18歳～44歳で、心身が健康な人に、男女を問わず入団資格があります。お問い合わせは、消防総務課 ☎44-0985へ、どうぞ。

